

平成31年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月29日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	柔軟な学びのシステムを活かした教育課程の編成を推進する。 生徒が主体的に学び、学力の定着が図れるような授業を実現するための研究を推進する。	①新学習指導要領の趣旨を踏まえた、新教育課程の編成を構築する。 ②生徒が主体的に学べるための授業研究を行う。 ・ICT機器等を活用することで、さらに分かりやすい授業の実現を目指す。	①新学習指導要領の改訂に伴う課題について、その対応を検討する。 ②様々な生徒に対応できるように「授業のちよつと×2」の取り組みを深め、ちよつと、授業を工夫し実践していく。 ・ICTを活用し、教員間で連携・共有を図りながら「わかる・できる」授業を目指すとともに、BYOD回線を活用した効果的な授業展開を実践する。	①新学習指導要領の改訂に伴う課題について、その対応を検討することができたか。 ②各教科で、「ちよつと×2」を実践した授業を行い、内容を共有できたか。 ・ICTを活用した授業例や教材等を教員間で共有しながら授業改善ができたか。	①教育課程の策定方針を立て、各教科等に検討してもらうことで、組織的に対応することができた。 ・BYODを意識した研究授業を行えるよう授業開発に取り組むことができた。 ・生徒所有のスマートフォンやchromebookを活用した授業が少しずつであるが、展開されている。	①原案どおりでよいという回答が散見されたので、自分自身が関わって新たな教育課程を作り上げるという土台の醸成をさらに進めることが必要である。 ・教科指導においてBYOD回線の効果的な活用を組織的に模索していくことが課題である。	・新教育課程への組織的な対応ができたことは、重要な達成である。 ・「ちよつと×2」、BYOD導入などで、定時制教職員が大きな貢献をした。	・新教育課程への組織的な対応をさらに前進させる。 ・「ちよつと×2」を踏まえ、ICT、BYOD回線を効果的に活用した授業実践が行われている。	・職員会議等で途中経過を報告し、教職員全体での情報共有を図る。 ・教科・課程を超えて効果的に活用研修会等を行う等、工夫・改善を図る。
2	生徒指導・支援	多様な課題を抱える生徒に対応するため指導、支援体制の充実を図る。 学校行事を通して生徒の自己肯定感の向上を図る。	①外部の関係機関の人材と連携し、支援体制の充実を図る。 ・学校いじめ防止基本方針に基づく取組を徹底する。 ②生徒が主体的に活動し、自己肯定感が高められる環境づくりを進める。	①外部関係機関と連携しながら生徒の指導・支援を行う。教育相談コーディネーターを中心に相談体制・支援体制の充実を図る。 ・いじめアンケートの内容を検討し、いじめの未然防止、早期発見に努める。 ②文化祭、スポーツ大会を生徒会中心に企画運営を行い、自分たちが作り上げる行事にする。	①外部機関と連携することができたか。教育相談コーディネーター（年次相談係）を中心に、相談体制・支援体制が機能できたか。 ・いじめアンケートの結果は、迅速に適切に対応できたか。 ②生徒自らが主体的にクラスの企画を作り上げることができたか。	①県立総合教育センター、県警少年相談保護センター、児童相談所等との連携の他、こころサポート事業を活用して、精神科医との連携、外国につながるの生徒が母語で相談できる体制を作った。 ・いじめアンケートは適切に対応した。 ・挨拶運動をはじめ生徒会が中心となって明るい学校になるよう雰囲気づくりに努めることができた。	①SCの利用は、1年次生が多く、他年次も必要な生徒は繋がるよう働きかけが必要である。こころサポート事業は、2年間の事業であり、事業継続は費用面で調整が必要である。 ・いじめアンケートは、欠席をしている生徒からは、情報を集めることができない。	・多様な機関との連携を広げることで、「頼れる」ネットワークを広げたことは大きな成果である。 ・いじめアンケートや挨拶運動など積極的な取り組みが見られた。	・頼れる外部機関と連携を取りながら、生徒を指導・支援できた。 ・いじめアンケートは年2回行うことが定着し、適切に対応できた。	・繋がりをもた外部機関との連携を継続していく。 ・いじめアンケート実施日に欠席した生徒には、登校した際に随時アンケートを実施する。

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	(2月29日実施)	成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりが将来性、計画性を踏まえて自己実現ができる進路指導の充実を図る。	①多様な課題を抱える生徒に対応するキャリアサポート体制の充実を図る。	①校内カフェや進路の活動を通して、外部支援者、教員、生徒の間の連携を緊密にする。 ・就労相談を主要業務とする若者サポートステーションやハローワーク、NPOなどと連携をし、早期から体験的な学習を実施する。 ・外国に繋がる生徒の就労に関して連携先を模索する。	①校内カフェや進路の活動を通して外部支援者、教員、生徒の間の交流がなされたか。 ・就労相談の利用状況や体験的な学習の実施状況はどうだったか。 ・外国に繋がる生徒の就労に関する連携先を開拓できたか。	①校内カフェを通じて企業やNPO及びカフェスタッフ等と、本校職員間の交流が活発になった。 ・就労相談や体験学習は、外部との連携というよりも、インターンシップや教員による相談という形で実施できた。 ・日本語を苦手とする生徒は、進学をする傾向にあり、就労先としての開拓は進まなかった。	①校内カフェの認知度が高まってきたので、今後、カフェを核として生徒の進路意識向上につなげる。 ・カフェで面談の予約を取り、別日での面談という形を確立する必要がある。 ・企業との連携を深め、外国につながる生徒の就労先の情報収集する必要がある。	・校内カフェを通じて交流の活発化は大きな成果である。 ・カフェに足が向かない生徒のフォローが課題である。	・校内カフェを通じて外部と活発な交流ができてきているが、カフェに足が向かない生徒に対して、何らかの支援が必要である。	・カフェスタッフが教室を巡回する出張カフェなどで、生徒との交流を行い、他者との交流を心地よいと思ってもらえる素地を作る。
4	地域等との協働	地域に理解され、信頼される活動を推進する。	①地域との連携を推進し地域貢献活動に積極的に取り組む。 ・防災活動について地域との協働を図る。 ②教育活動の情報発信の充実を図る。	①地域貢献活動の一環として清掃活動を通して地域に貢献できるようにする。 ・厚木市や近隣自治会と連携・協議して「避難所初動マニュアル」を整備する。 ②ホームページのCMS化に伴い、情報発信の質的向上を目指すとともに、三課程合同パンフレットの作成を進める。	①日頃から地域の美化を目的に生徒が行動することができたか。 ・厚木市や近隣自治会と連携・協議をして「避難所初動マニュアル」を整備できたか ②ホームページのCMS化や三課程合同のパンフレット作成について課程間での調整ができたか。	・年に2回の地域清掃活動を行い、環境美化に努めることができた。 ・厚木市より本校を避難所とする自治会が指定されておらず、整備に至っていない。 ②三課程合同のパンフレット作成について課程間の調整を図った。	・厚木市と連携をはかり、本校を避難所とする自治会を早急に指定するよう働きかける。 ②課程間の調整を図りながら、効果的な広報活動の充実を図るとともに、三課程合同の中学校教員向け説明会実施の検討を進める。	・高校生が地域清掃に取り組んでいる活動は評価できる。 ・外部との連携の広まりは、この地域での本校の存在感を増している。そこを地域に生かす工夫がほしい。	・地域貢献活動を通して、学校の取り組みを発信することができた。 ・地域や厚木市との連携をはかり、本校を避難所として機能させるための組織作りが今後の課題である。 ・課程間で連携・調整を図ることで広報活動の充実を図ることができた。	・生徒がより、地域に対して愛着を持てるような取り組みができるようにする。 ・避難所運営については厚木市の防災担当部署との連携をさらに深める必要がある。 ・三課程合同のパンフレットの質的向上、三課程合同の中学校教員向け説明会の実施等、工夫・改善を図る。
5	学校管理 学校運営	安全・安心な学校づくりのために三課程が連携して教育活動を展開する。 フレキシブルスクールとして三課程の情報共有を推進する。	①学校運営マニュアル等の内容の充実を図る。 ・三課程で連携実施する防災訓練を発展させる。 ②ICT機器の活用により、学校運営の円滑化をさらに推進する。	①厚木市や神奈川県や学校周辺自治会との連携を図り避難所運営委員会を立ち上げる。 ・三課程が協力して、教員主導でなく生徒主体の実践的な防災訓練を計画実施する。 ②セキュリティ意識を高め、効果的な情報共有の追求を図るとともに、老朽化したICT機器の更新等を進め、快適なICT環境の構築やBYOD回線の効果的な活用を	①厚木市や神奈川県や学校周辺自治会との連携を図り避難所運営委員会の立ち上げについて動き出せたか。 ・実施要項に基づき三課程合同の防災訓練が実施できたか。 ②セキュリティ意識を高め、効果的な情報共有ができたか。使いやすいICT環境整備が推進できたか。	・厚木市より本校を避難所とする自治会が指定されておらず、整備に至っていない。 ・今年度も三課程避難訓練を実施することができた。 ②三課程合同で研修会を実施する等、セキュリティ意識を高める取り組みを推進するとともに、ICT環境整備の充実を図った。	・厚木市と連携をはかり、本校を避難所とする自治会を早急に指定するよう働きかける。 ・避難訓練は問題なくできることがわかった。今後は様々な災害を想定した訓練を計画したい。 ②課程間で連携を図りながら、セキュリティ意識を高め、効果的なICT機器の活用の推進を継続して進め	・三課程の連携が進んできている。これが本校の特徴で、強みである。	・三課程が連携して防災活動や災害時の緊急避難等を行うことができた。 ・地域や厚木市との連携をはかり、本校を避難所として機能させるための組織作りが今後の課題である。 ・セキュリティ意識を高めるとともに、老朽化したICT機器等の更新を推進するができた。	・避難所運営については厚木市の防災担当部署との連携をさらに深める必要がある。 ・課程・教科を超えた効果的な情報共有の追求を図るとともに、ICT活用の質的向上を図る。

